

やまと 民俗への招待

鹿谷 熟

秋祭りに登場する山車の一種として布団太鼓（太鼓台）やダンジリを紹介してきたが、提灯10張り～12張りを山形に連ねた「ススキ提灯」、「十一振り」と呼ばれるものを担いで練り歩く行事がある。御所市の鴨波神社の秋祭りで、平成11（1999）年に私は初めて見た。2間半（4柱・5筋）ほどの丸竹の支柱に、横木を4本通し、上から2張り、4張り、4張りと計10張りの高張提灯を3段に吊り下げ、頂きに御幣を挿したもので、ススキ提灯と呼んでいた。ススキは、秋の七草の薄ではなく、山形に積みあげた提灯が、稻藁を積み上げた姿に似ているところからきたものだろう。

江戸時代の祭礼渡御の様子を描いた大絵馬を調べていたことから、ススキ提灯のことを知ったのだと思ふ。当時は新聞で報じられたり、写真家が撮影したりすることもなべく、地元以外ではまだ知られていなかった。

田三^{ミヤ}(音訓)当田の町中を歩くと出来上がり立つたスキ提灯があらかじめに立っていた。一つ一つ確認して歩いてみると、次第に辺りが暗くなり、ようやく町内の人も出てきた。午後7時半ごろ、神社北方の葛城公園に提灯と人々が集結する。太鼓を車付きの台で曳いてくる所や鉦^{イハシ}を打ちながらやってくる町内もあり、鳥に辺りは賑^{ノリ}やかになる。スキ提灯は、元は夏祭りに出されたが、昭和28



鶴都波神社のススキ提灯=御所市で、筆者撮影

御所の町のススキ提灯

藁を積み上げた姿に似て
いるといふからきたもの
だろう。

ようやく町内の人も出てきた。午後7時半ごろ、神社北方の葛城公園に提灯と人々が集結する。太鼓を車付きの台で曳いてくる所や鉦イハシを打ちながら走ってくる町内もあり、急に辺りは賑やかになる。ススキ提灯は元は夏祭りに出されたが、昭和28

西久保本町が「鍵本」「富本」で、ここが毎年すべてのススキ提灯の先頭に立ち、他の町内は事前の打ち合わせでクジをして順番を決める。雨天の時も、西久保本町だけは弓張提灯に替えて代表者が参ることになっていく。

は太鼓が付属している。
鴨都波神社のススキ提
灯の行事を中心に御所市
内外の献灯行事の歴史や
分布が詳細に調査され、
令和元（2019）年に
大部の調査報告書が御所
市教育委員会から刊行さ
れた。その結果、神前に
光りを捧げる献灯の行事
の県内での分布とその差

架かる鴨口橋を越えて、
神社に参入する。境内に入ると提灯を持ち上げたり、回転させたりもして、大いに練る。終わると町内ごとに神社に参拝し、巫女神楽が舞われ、一同で鉈を頭上に戴く。

事のなかでススキ提灯1
対が登場し、北葛城郡一
帯では提灯が上から2張
り、4張り、6張と計12
張り付いた「十二振」や
「十二燈」と呼ばれる提灯
を用いて、太神宮^{太神宮}灯籠の
祭りなどに献じられる。

表

(奈良民俗文化研究所代)